

薬事新報

平成20年（毎週1回木曜日発行）昭和33年8月4日 第三種郵便物認可・薬事新報社®

4月17日

第2522号

目次



本誌創刊記念・棟方志功画

医療を考える〈これからの薬剤師教育と新人薬剤師に期待する〉	新井 克明… 3
論壇〈新たな薬学教育が目指すもの〉	木津 純子… 5
漢方薬の医薬品情報と服薬指導（11）	
漢方薬の剤形②（エキス製剤）	山谷 武司, 赤瀬 朋秀… 9
抗癌剤の混合調製業務（44）	
当院における抗がん剤混注業務	竹内 公美… 13
持参薬管理	
当院における持参薬チェック業務の現状と問題点	三宅 英二… 25
連載・機能性健康食材（9）	
タケノコの健康効果	本橋 登… 31
医薬の窓（395）—近着誌から	松村 正史… 36
仲川義人先生を偲んで	菅原 和信… 37
人と人〈感染制御専門薬剤師を志して〉	滝 久司… 38
点描〈花見〉	萬 藏… 38

News

全国社会保険病院薬剤師会、総会・学術大会を開催	【2】
とかしきなおみ国会レポート8「敬天愛人」	【3】
第93回薬剤師国試試験合格発表	【4】

本誌綱領

本誌は日本病院薬剤師会に協力して会員間の連携を強め、会の発展と会員職能の向上に努める。

本誌は常に誌面提供の機会を均等に保ち、臨床薬学、剤界情報の媒体として、わが国薬学薬業の発展に努める。

明日は変えられる。

Leading Light for Life
アステラス製薬

医療を考える

これからの薬剤師教育と 新人薬剤師に期待する

私が病院薬剤師になったのは、28年前です。期待に胸を膨らませて病院に就職したにもかかわらず、薬剤師が患者様に「薬の作用」を説明しようものなら医師に「治療の邪魔だ！」とお叱りを受けました。癌の告知もなかった時代ですが、薬剤師として薬の知識を患者様に伝えられないことに憤りを感じました。何のために勉強したのか？薬剤師は何のためにいるのか？ 当時、病気の患者様のために薬剤師として働く場所は、病院の他にはほとんどありませんでした。町の薬局は処方箋による調剤をしておらず、MRは医師への営業活動が主な仕事でした。また、研究所では創薬中心の業務が行われていました。そして、病院薬剤師ですら患者様に行える行為は調剤のみだったのです。

こんな状態から、病院薬剤師は自らがどうしても必要と考えた業務を一つひとつ実現してきました。治験管理の整備。一包化調剤。ベッドサイドで薬の説明と副作用の確認。相互作用チェック。在宅訪問指導。感染・栄養・褥瘡などのチームでの活躍。エビデンスに基づいた薬剤の提案など。経営者や院内の医療関係者からも理解されず、金銭的・時間的余裕もないまま、血のにじむような

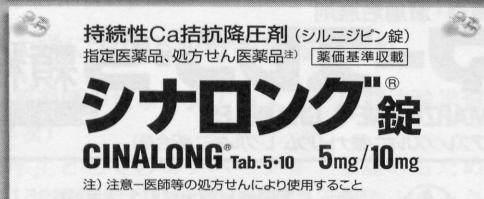
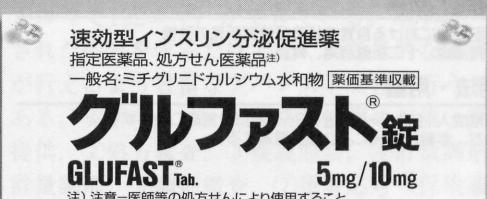
(医)渡辺会大洗海岸病院

新井克明

努力により業務内容を少しづつ患者志向に変えてきました。現在、薬科系大学で検討されている新しい薬剤師教育カリキュラムは、このようにして臨床現場で確立されてきた技術と知恵であり、さらに先人薬剤師自らが新人時代に手に入れておきたいかった知識の集大成です。このような教育を受けられる後輩をうらやましく思います。

しかし、大学の教育があまりに過保護になって、学生や新人薬剤師が努力や回避困難な障害を克服することもなしに、理想的な業務と高い能力をすんなり身につけてしまうことに一抹の不安を感じずにはいられません。医療は患者様のためにあるもので、薬剤師のためにあるのではないこと。仕事は厳しくて解決不可能に思えるほど困難なものであり、それを解決していくのが仕事であること。医療現場はまだまだ問題山積で斬新な着想、忍耐と努力が要るということ。これらの事も、臨床で行われる実務実習などを通して、薬学学生に十分に理解してもらいたいと切に願います。

病院の閉鎖、救急医療の破綻など、医療は今崩壊の危機にあります。理屈の通らない現場でもその能力をフルに発揮してチームをまとめ、問題を解決できる素晴らしい人材（医療の救世主となり得る薬剤師）の輩出を期待したいと思います。



禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

Kissei 薬品工業株式会社

松本市芳野19番48号 <http://www.kissei.co.jp/>
<資料請求先> 製品情報部 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号

BGCU101XT

2006年9月作成